

### 559 In-111 標識マウス MoAb (96.5及びZME018)

によるヒトのメラノーマのイメージングについて  
 小山田日吉丸, 照井頌二, 福喜多博義 (国立がんセンター, RI)  
 われわれはまず抗体 96.5 について, 京都大学及び北里大学との協同研究の形でヒトのメラノーマのイメージング (In-111 標識) に関する治験を行った。その後は ZME 018 について更に金沢大学, 熊本大学など 6 施設が加わって治験を行い, この度一応終了したので, 今回は国立がんセンターでの症例をとりまとめて報告する。

In-111 で標識された両抗体の体内挙動は, 尿中排泄率, 血中クリアランス, 及び体内残留率等のデータでみる限り微妙な差はあるものの, シンチグラム上には特に際立った差は認められなかった。病巣の検出能はいずれも Ga-67-citrate とほぼ同等であった。代表的な症例を呈示する。

### 560 イムノシンチグラフィ (IMACIS-1) の臨床的検討

高橋利明<sup>1</sup>, 辻野大二郎<sup>1</sup>, 加藤義郎<sup>1</sup>, 和田祐爾<sup>1</sup>, 大原裕康<sup>1</sup>, 染谷一彦<sup>1</sup>, 板垣勝義<sup>2</sup>, 高橋考子<sup>2</sup>, 今西好正<sup>3</sup>, 石川 徹<sup>3</sup>, 榊 徳市<sup>4</sup>, 佐々木康人<sup>5</sup>, (聖医大第 3 内科<sup>1</sup> 同放射線部核医学<sup>2</sup> 同放射線科<sup>3</sup> 駒沢短大放射線科<sup>4</sup> 群馬大学核医学科<sup>5</sup>)

IMACIS-1 を用いたイムノシンチグラフィの臨床検討を報告する。対象は 35 例である。原発巣 32 例中 18 例 (56.3%), 転移巣 28 例中 20 例 (71.4%), 消化器系癌 22 例中 17 例 (77.3%), 非消化器系癌 13 例中 4 例 (30.8%) で病巣部への異常集積像が得られた。IMACIS-1 と他の画像診断との比較, 腫瘍 size と検出率の関連, またサブトラクションや SPECT などの有用性も検討し報告する。

### 561 I-131 抗 CA125 モノクローナル抗体を用いた免疫シンチグラフィの検討

和田祐爾<sup>1</sup>, 長島 学<sup>2</sup>, 高橋利明<sup>3</sup>, 板垣勝義<sup>3</sup>, 榊 徳市<sup>4</sup>, 岩田正範<sup>2</sup>, 齊藤 馨<sup>2</sup>, 辻野大二郎<sup>1</sup>, 佐々木康人<sup>5</sup>, 染谷一彦<sup>1</sup> (聖医大第 3 内科<sup>1</sup> 同産婦人科<sup>2</sup> 同放射線部核医学<sup>3</sup> 駒沢短大放射線科<sup>4</sup> 群馬大学核医学科<sup>5</sup>)

我々は IRIST より提供された I-131 抗 CA125 モノクローナル抗体を用いた免疫シンチグラフィを行なう機会を得たので, 卵巣癌患者に対する有用性を検討した。I-131 抗 CA125 F(ab')<sub>2</sub> 3.0 mCi を生食 100 ml に溶解し点滴静注した。3 日目に全身前面シンチグラフィとスポット像, 5 日目にスポット像を撮影した。対象は胎児性癌Ⅳ期, 漿液性嚢胞癌Ⅲ期, 類中腎癌Ⅲ期の 3 症例で明らかな異常集積像が認められた。なお全症例とも抗体投与による副作用は認められなかった。